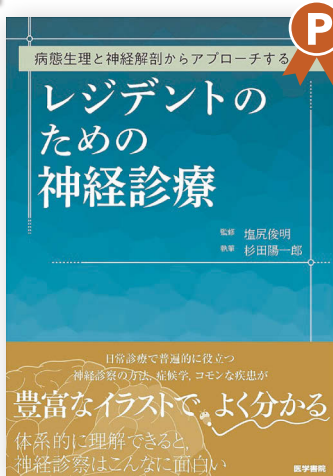




病態生理と神経解剖からアプローチする レジデントのための神経診療

塩尻俊明＝監修

杉田陽一郎＝著

定価 5,720 円／B5 判・392 頁／医学書院／2023

神経領域は「難しい」「わかりにくい」と敬遠されがちだが、体系的に理解できると面白いと感ずることができる。本書は初心者向けに、領域横断的に内容をまとめ、オリジナルのシュエマを多用し概念を整理して提供することで、研修医・若手医師の学習に有用な 1 冊となっている。日常診療で普遍的に役立つ神経診療の方法や症候学、コモンな疾患を扱っており、非専門医であればここまで把握しておきたいという線引きを明示した。



『呼吸器ジャーナル』2023 年 8 月号 (Vol.71 No.3)

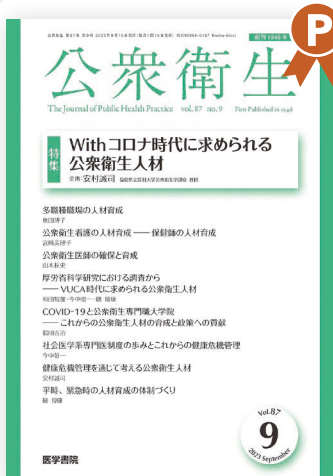
呼吸器画像診断

疾患理解が深まる読解のコツ

中野恭幸＝企画

定価 4,400 円／A4 変判・160 頁／医学書院／2023

呼吸器疾患の理解や診療にあたって、画像検査はなくてはならないものだ。胸部 X 線写真のない呼吸器診療は想像がつかず、多くの医師にとって、必要時に CT を撮像することのできない呼吸器診療も考えにくいのではないだろうか。しかし、そこにいろいろな胸部画像があったとしても、その利用の仕方は医師によってまったく違っていかねない。本特集では、「感染性疾患」「腫瘍性疾患」「気道閉塞性疾患」「アレルギー性疾患」「間質性肺疾患」「肺血管性病変」などの画像の読み方や気をつけるべき点、画像からどこまでわかるのか、などについて丁寧に解説した。



『公衆衛生』2023 年 9 月号 (Vol.87 No.9)

With コロナ時代に求められる公衆衛生人材

安村誠司＝企画

定価 2,640 円／B5 判・120 頁／医学書院／2023

COVID-19（新型コロナウイルス感染症）の流行により、公衆衛生人材の必要性が高まっている。保健所の人員不足もメディアを通じて共有された。その後、感染症法第 5 類への移行に伴い、“with コロナ”と言える状況になった。このように感染症と共存せざるをえない時代における公衆衛生人材の育成は、極めて時宜を得た課題である。そこで本特集では、さまざまな立場でその人材育成に関わっている研究者・実践家から、その現状と課題について情報提供いただいた。「職種」「教育」「研究」「健康危機管理」の視点からの報告は、いずれも有益な内容となっている。

本欄で紹介した書籍は、読者アンケート (p.1222) に
ご回答いただいた方に、抽選でプレゼントいたします。



『BRAIN and NERVE』2023年8月号 (Vol.75 No.8)

アルツハイマー病は 本当に早期発見できるのか

『BRAIN and NERVE』編集委員会＝企画

定価 2,970 円／A4 変判・88 頁／医学書院／2023

アルツハイマー病の疾患修飾薬である aducanumab と lecanemab が相次いで FDA (米国食品医薬品局) に迅速承認され、後者は今年 7 月に正式承認された。しかし、アミロイドβを標的とした薬物の有効性は疾患初期に限定されることが徐々に明らかにされ、アルツハイマー病の「早期診断」の重要性は、単なるかけ声ではなく喫緊の課題と言える。本特集では、「アルツハイマー病の早期診断は本当に可能か」「どこに解決すべき問題点が残されているか」をテーマに、それぞれのエキスパートに現時点での知見を述べていただいた。アルツハイマー病治療の新時代が始まろうとするなか、適切な対策を模索することが求められている。



職場のメンタルヘルスケア入門

宮岡 等＝編集代表

淀川 亮、田中克俊、鎌田直樹、三木明子＝編

定価 3,740 円／B5 判・256 頁／医学書院／2023

職場のメンタルヘルスケアに関して“知っておきたいこと”を「実践的に」「コンパクトに」「わかりやすく」解説した。産業医として勤務する精神科専門医・産業医・産業看護職・弁護士がタッグを組み、Q&A形式で最新の知見に即して職場のお悩みを解決する。産業医・産業保健スタッフのみならず、職場のメンタルヘルスケアに関わる方にとって必携の1冊。